

- 中国の道路網はアメリカに次いで第2位の500万kmにまで整備された。
- 特に高速道路網は19年末で149,600km整備され総延長距離は世界トップレベル
- 時速150km規格のスーパー高速道路（浙江省）も2022年に完工を計画
⇒また自動運転を実現するインテリジェント化も実証実験など推進中

1. 中国高速道路網整備

中国の道路網は改革開放による経済発展にともない着実に総延長を伸ばし、2019年の中国の道路総延長距離は2000年に比べてほぼ3倍の500万kmとなり米国について世界2位のレベルに成長した。高速道路は更に発展が早く1988年に上海で中国初の高速道路が建設され、1992年以降に中国国家高速道路網整備が計画され2010年を目標に35000kmの高速道路網（五縦七横）の建設が開始されたが、実際には2009年末までに65000kmの建設を達成してしまった。2019年に至っては中国の高速道路網は2000年に比べてほぼ9倍の約15万kmにおよび米国を抜いて世界トップの総延長距離に至っている。実際古くから中国と関わってきている者にとっては中国での高速鉄道、高速道路、空港の整備の発展は全く予期できなかったものであり、その発展を目の当たりにして中国発展の象徴として感じている。また中国国内にはとどまらず2013年末にはクミン・パンコ道路を国際高速道路として改修し、今後は一帯一路の流れにも乗り更にアジア域内の高速道路網の充実を狙っていくものと思われる。



2. 高速道路の高規格化・高機能化

中国での高速道路網の発展は、その総延長距離のみならず道路品質面でも大きく改善されレベルアップをしている。2000年代初頭では高速道路はできたものの道路品質が悪く高速度での貨物輸送をすると振動で簡単に荷崩れを起こしていた。また1年もすると路面状態が悪くなり高速走行ができなくなりいたるところで改修工事がされることになり周囲に何もない平原に高速道路だけが渋滞を発生させるというようなことが

しばしば発生した。しかし最近では道路品質が安定してきておりまだ日本の品質レベルには至らないものの海外での道路建設プロジェクトにおいて韓国と共に日本の競合国となってきている。また 2022 年のアジアオリンピック前を目標に浙江省で中国初となるスーパーハイウェイ：超高速道路も建設中である。

更に道路の高速化のみならず道路の知能化・電動化も実証実験を続けている。

知能化では来るべき自動運転時代に備えて中国仕様での自動運転システム開発を進めており、雨天・高温・低温でも自動運転の信頼性を確保できる安定した道路品質の向上を進めている。電動化においては高速道路での再生可能エネルギーを活用した充電施設の設置や将来を見据えた電動車への高速道路での走行中における非接触充電の研究も進められている模様。

3. これからは

中国においては、政府の強力な指導力により国家を上げて新技術の実用化に向けた研究を進めており他国に先駆けて様々な実証実験を開始している。このような繰り返しの中で通常の技術・品質も底上げが進み、中国国内での利便性の向上とともに低コスト頼みで推進していた海外プロジェクトにおいても技術に裏打ち打ちされたプロジェクト競争が進んでくる。世界の工場だった中国が、他国が逡巡する新技術の先行試験場となり、先進イノベーション国家に変容する可能性もあると考え、今後は中国と一定の良い距離感を保ちながらも中国に負けない技術も確保し続けることが重要となってくるのではないかと考える。

以上

[ご注意]

1. 秘密保持：本資料記載の情報の貴社への開示は貴社の守秘義務を前提とするものです。当該情報については貴社内部の利用に限定され、その内容の第三者への開示は禁止されています。
2. 著作権：本資料記載の情報の著作権は原則として当機構に帰属します。いかなる目的であれ本資料の一部または全部について無断で、いかなる方法においても複写、複製、引用、転載、翻訳、貸与等を行うことを禁止します。
3. 免責：本資料記載の情報は、当機構が信頼できると考える各方面から取得しておりますが、その内容の正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。
4. 本資料は、情報提供のみを目的としたものであり、当機構との取引の勧誘を目的としたものではありません。